

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

議長の登壇の許可を得ましたので、ただいまより4番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

今回は、7項目ほど質問を挙げさせていただいておりますが、私としてはちょっと多かったかなというふうに思っておりますが、的確に質問させていただきたいと思います。

この質問に入る前に、どうしても言っておきたいことがありますので、それに対して市長さんにお答えいただきたいなと思っております。

それは、私も9、10、11日と東北の被災地のほうへ行ってまいりました。報道もいろんな形で報道されておりましたが、行ってみると、本当にいろんな思いがまた込み上げてきました。それに対して、やっぱり武雄市もいろんな形でほかの自治体よりはというか、そういう形で市長もいろんな支援をしていただきましたが、行ってみると、本当ますます同じ日本国民として東北の方たちを支援していかなければならないんじゃないかなというふうに思いました。

チーム武雄という形で何チームか送っていただきましたが、昨年、太鼓の協力お願いということで、イベントのお願いということで行かれた一人が、何かしら丸2年がたって、向こうの人たちに頑張ってもらいたいという気持ちを伝えたいということで、色紙に言葉を書くことを始められました。それが100人になっていく途中に、ああ、向こうの子どもさんたちに遊んでもらったらということで、竹とんぼを100本、それと、竹でできたぶんぶんごまを100個ほど預かることになりました。本当に市民の人たちは、思いをどんなふうに伝えたいのかなという形で、向こうの人に沿うにはどうしたらいいのかなというふうにかくさんの声を寄せていただきました。そのときに私もその色紙とですね、それを持っていくことになりましたが、やはり相手が見えるという支援ですね、それが一番じゃないかなというふうに思います。

今後とも、そういう支援を続けていってほしいということと、それに対しての質問と、あと、職員さんが2人派遣されておりますが、その方々、上田さんと古賀さんの話を現地で聞くこと、またはお住まいの仮設から職員の住宅ができたということで、その部屋も見せていただきましたが、本当に大変な御苦勞があって仕事をされています。そういう上で、やはり市長はもっとそういう方の支援もしていかないといけないし、今後、ぜひとも続けていってほしいというふうには私は思っておりますので、そういう形で市長は今後、被災者のほうの支援をどんなふうに思っておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先般、小池一哉被災地特別委員長と山口裕子総務委員長とともに被災地に入りました。

その際に、さまざまな方とお話をする機会があって、非常に印象に残っているのは、細くてもいいから、ずっと継続的に続けてほしいと。要は、いきなりどんとか、ばんとかって、それはうれしいんだけども、もうそれで終わってしまうというような不安がすごいあるっておっしゃったんですよ。これは、異口同音いろんな方々がおっしゃったので、僕らがやらなきゃいけないことは、やっぱり細くてもいいから、5年、10年きちんと続けていくということ、これは毎日じゃなくてね、1年に一遍でもいいんですよ。で、もうつくづく感じたのは、そういう心のつながりというか、さっき山口裕子議員さんがおっしゃったように顔の見えるつながりですよ、支援じゃなくて。それがやっぱりすごく求められているということが、すごく感じました。

ですので、我々は、今、職員を、非常によく頑張ってもらっています。古賀龍一郎なんか、もう市長の右腕で、もう向こうの職員やったですもんね。非常にうれしく思いました。で、物すごく高く評価されています。上田哲也についてもしかりです。今度、4月にまた新たな職員を、上田哲也と交代ということで我々出向させますけれども、うちのエースをまた出していきたいということを思っています。で、先ほど御指摘があったように、やはり温かい、彼らがやっぱり働きやすい環境を我々は整えていく必要があるだろう。これは、我々の責任としてしっかりやっていきたいと思っています。

そして、帰り際にある市民の方から言われたのは、来年もぜひ来てくださいと言われたんですよ。私、選挙前やとけなと思ってね。ですが、もうこれは乗りかかった船ですので、自分の選挙よりもね、やっぱりもう私が行くことで少しでもね、何というんですかね、被災地の皆さんたちの心が晴ればね、それはやっぱり僭越ですけど、ぜひ行きたいということは思っております。ただ、私一人で行くのもね、それは私も微力ですので、大勢の方にまた今度は広く呼びかけてまいりたいということは思っております。何人か目をそらしている方々もいらっしやいますけれども、ぜひ一緒に行って、心と顔を届けに行くと。

そういう意味でいうと、私たちだけだったんですよ。陸前高田市の追悼式で首長が行って、議会のしかるべき要人がお見えになったというのは私たちだけだったんですよ。ですので、そういう意味で武雄は本当によくやってくださっているということをいろんな方々がおっしゃいました。

それと、ちょっと私からは最後にしますけれども、おかげさまで今、私はバブル状態で、発信力があります。これはいいにつけ、悪いにつけありますので——そうです。ですので、どうせこの賞味期限もあと1年ぐらいしかもちませんので、その間に被災地の置かれた状況であるとか、我々の感じていることをどんどんやっぱり発信していこうということは思っています。特に今、ブログのアクセス数が1日、場合によっては20万超えています。ですので、それもいつまでも続くかわかりません。最初は2人でしたので、見ている人。僕と妻だけでした。いつ、そうまた戻るといってもわかりませんので、今のうちにやっぱりきちんと責任

感をね、そういう意味での発信という意味でも果たしていきたいというように思っております。

それと、やっぱりもう少し僕も性格をソフトにしていこうと思っておりますので、御指導のほどよろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

（モニター使用）これが確かにお渡ししたという形ですね、戸羽市長さんと、私は寝ていますが、竹とんぼですね。これは伊万里の市民の方だったんですが、これとぶんぶんごまとかをですね。そしてまた、この後、教育委員会を通して子どもたちにお渡ししますということでした。

あと、最後の日はこんな形で、この方が大友さんですよ。皆さん、議員さんたちが最初5月に被災地支援という形で、泥水とか、いろんな家の中の瓦れきとかを撤去された方のやっておられるゆいファームという法人は、東北震災の補助金をいただかれて、このように大きな立派な施設というか、そういうのが建ちましたということで、よろしくお願ひいたしますということです。この周りは瓦れきがそのままだし、少しずつ田んぼとかも復旧していますが、本当にこういう施設を建てて、その周りにハウスが10棟ぐらい並んでいたんですが、これがまた、この大友さんが元気を発信されてというか、大友さん自身がトラクターとかいろんな機械もですね、重機も使って農業をされるということなんですね。だから、また私たちもできることがあれば応援しますからということでお話を得て帰ったところで、訪れたことは突然だったから、本当に喜んでいただけました。報告という形で、ますますの武雄市の支援もしていかなければならないんじゃないかというふうに思いました。よろしくお願ひいたします。モニターを終わってもらっていいです。

それでは、私が挙げておりました第1番目、高齢化社会の対応についてですが、まず、先ほど午前中の川原議員と重なりましたが、みんなのバスという形で挙げさせてもらっています。これは、私も何度となくお伝えさせていただいておりますが、今山の区民の皆さんが本当に活用されて、区長さんが十分なる話し合いとか対話集会をして、どのようにしたら一番いいかという形で先進地的に実験運行をさせていただいて、また、このたび4月からも運行させていただくようになりました。で、料金の問題とか、いろんな問題が挙がっておりますが、うちの区民の方は、本当にお金を払うことによって気兼ねしないで乗れるということ、そして、お金を払わないと、これがひよっとしたら財政難で終わってしまうんじゃないかという不安を抱えていらっしやったので、とてもいい運行になっていくんじゃないかということを期待されております。

また、私が武雄市全般の大きな集会に出たとき、それは女性だけの会だったんですね。で

も、ちょっと見渡せば、70歳以上くらいの女性たちが多かったんですね。その中でちょっと印象に残っているのが、みんなのバス、みんなのバスと言うけど、これは一部の人のバスやもんねということで、とっても私は心痛かったんですね。そんなふうに、私もあと何年かしたら免許を終わりにして、こういうのにお世話にならないといけない時代が来るし、今からは本当に今までみんなが味わわなかった高齢化社会になっていくことを考えれば、これが運行されます。そしたらまた、そういうふうに必要なとされているところの実験運行とかをやったりやりながら、皆さんの、本当の意味でみんなのバスになるように考えていかなければならないんじゃないかというふうに思っておりますが、市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、答弁に入ります前に、やっぱりこれ、今までやったところで、やっぱり濃淡であるんですよ。あって、特に今山地区はうまくいっています。北方もうまくいっていますけれども、うまくいっていて、その要因というのは、やっぱり区長さんの存在なんですよ。特に草場区長さんが、私の中学校のときの恩師で、怖くて優しい恩師だったんですがね、その方が本当にここ、特に1年半ですよ。もう粉骨砕身頑張っていた。だから、呼びかけもそうだし、こういうふうに乗らましようねということをおっしゃったんで、行政にお任せ状態のところって、基本的にうまくいかないんですね。ですので、区長さんがどういうふうなお気持ちを持たれているかということで、希望も含めて、それは幅広く応じていきたいと思っております。その上で実験運行をして、で、これね、やっぱりこれは市民負担に伴う話ですので、走らせても誰が乗らないとかというと、これは全部市民に負担がのしかかっていますので、やっぱりそれは実験運行しながら、本格運用するかどうかというのはきちんとやっぱり判断を、議会とよく相談してしなきゃいけないなというふうに思っています。私たちとすれば、本当にお困りの地域、やっぱりあります。ありますので、特に周辺部ですよ、武雄市の中でも、周辺部の皆さんたちに温かい手を差し伸べるというのがみんなのバスの趣旨ですので、そういった方向でまたふやしていきたいと思っております。

ですので、今度お金を200円取るということになりますけれども、これは心苦しいばかりであります。しかし、皆さんたちがこれを使ってくださる、乗ってくださることによって、さらにこれが広がっていくということになりますので、ぜひこれをごらんになられている皆さんは、みんなのバスを自分たちのバスとして御活用していただくお願いをする次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはりバスが通っている地区からすると、ないところの人から、あなたのところだけよかもんねというふうに言われて、それを無料で乗っていると、本当に気兼ねせんといかんみたいなことをおっしゃっていましたので、今回きちんとですね、200円だったら、本当にそれでもタクシーで行っているときは何千円とかかって行かれていたわけですから、とてもいい運行になるんじゃないかというふうに期待をされています。

だから、本当に必要とされているところが実験運行を通してあれば、今後、やっぱりふやしていかなければならないんじゃないかというふうに思っております。やはり私もそういう集会の中で、あれは一部のバスやんとかいうふうに言われると、本当にその方の対応ですね、その地区の区長さんに相談なさって、そういう方が多くあれば、そこの実験運行に持っていかれたらどうですかとか、その次の進めようがありますので、やっぱり今回、こういう実験運行を通してこういう形になったのを今後とも考えていただきたいと思っておりますので、また答弁をよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口裕子議員さんを初めとして、お一人お一人お名前を申し上げるわけにはいきませんが、みんなのバスをそういうふうを活用してほしいとおっしゃっている議員さんには本当に感謝したいと思います。その上で、先ほど申し上げたように、我々とすれば、やはり手の届かないところにしっかり手を届けると、暖かい光を差し入れるというのが行政の役割ですので、そういう意味で、議員さんがうまく地区の皆さん、区長の皆さんたちをつないでくださるということについては、本当に感謝を申し上げたいと思っております。

ですので、先ほど区長さんのお力ということを申し上げたんですけど、やっぱりそこには議員さんのお力もあろうかと思っておりますので、ぜひそういう意味でのお力添えをお願いしたいと、このように思っております。

やっぱりね、私も言われるんですよ。これはあすこやけん走りようけんねとか言われて、それはすごくやっぱり返答に窮するんですよ。ですが、やっぱり新しいことをやるときというのは批判はつきものです。図書館もそう。ですので、それで僕らは歩みを批判を受けているからといってとめるのではなくて、よりよき方向にするというのが、それが今の樋渡市政だと思っておりますので、ぜひそういう意味での前向きなお力添えをお願いしたいと思います。私もちょっとプラカードをつくらうかなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういうことで、よりよいみんなのバスになっていくように願っています。

それでは、次の質問で、高齢化社会の対応についてのFM放送開局についてなんですが、私も、市や武雄市長がフェイスブック・シティ課というふうに課をつくられて、先進的に情報を皆さんに伝わりやすいようにインターネットを使ってやっておられますのに、私が何もフェイスブックとか、そういうものを見ることもできずに、発信することもできないのでおかしいかなと思って、昨年12月ごろよりスマートフォンとかを持ちまして、一生懸命勉強して、ああ、どういふものかなというふうにやっておりました。で、それをやってみて、行政からの発信とか、いろんな形でここに情報が載ってくるのはとてもわかりやすく、リアルタイムというか、今のこと、今、こういう行事があつているとか、こういう行事の準備をしているとかいうのが入ってくるのは、ああ、とてもいいことだなと、ああ、こういう形を知らないで私は過ごしていたんだなというふうに思って、自分なりに勉強して、FBにアップしたりとかいうことをやっておりました。

だけど、私は50代ですが、私の周りに聞いてみると、フェイスブックとかもですね、やっぱりやっていないとか、できないとか、そういう仲間も多くてですよ、高齢者の方たちにもこういうフェイスブックでという形で、IT寺子屋とかもいろいろあつていと思うんですが、これで情報発信する仲間というのはそう急速にふえないと思うんですね。でも、武雄のことを知りたいとかなると、やっぱり情報誌の市報とかが一番いいなというふうに私も、だから両方、インターネットとか、目で見るとか、ペーパーで見るとも大事だということは今まで言ってきましたが、それよりも、以前にコミュニティーFMですか、放送の開局の話がちょっと出ていましたが、これが農作業をしていたりとか、一日中ラジオをかけていたりということが気軽にできて、ラジオを用意するのも手軽だし、これが情報発信するのに満遍なく伝わるんじゃないかなというふうに思ったわけですね。だから、あの後どういふふうになったかわかりませんが、武雄のコミュニティーFM開局に対しては、市長さんはどう思つていらっしゃるか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私がコミュニティーFMつてぶち明けたときは、それはまた異論反論ありました。後ろからも、行政の中からもね、いや、これはコストに合わんぞとか、あるいは民間の方々でもね、何でケーブルテレビのあるとけ、こればせんばいかんですかとか、いろいろ言われましたよ。ですが、やっぱりね、やります。それはやっぱりね、この前、被災地に伺つたときに、仙台の若林区の、それは裕子議員さんも一緒に聞かれていたと思うんですけども、大友よし江さんのおうち、あれね、すごくきれいになっています。朝長議員さん、山口等議員さん、上田雄一議員さんもボランティアでされていたところ、あれ、家ですね、ちゃんと建て直つとですよ。まあ、小さくなつていますよ。小さくなつて、もとからある木をうまく活用

して、前よりもよっぽど住みやすくなっています。そこが、あれって思ったのは、その隣に防災無線があると。しかし、防災無線、よし江ちゃんが何て言ったかという、窓ば閉めたらワンワンワンてしか聞こえんすもんね。チャイムは聞こえても、何て言いよんさあか全然わからんすもんね。小池議員さん、そがん言いんさったですよ。

ですので、そういうことを考えたときにね、僕はもともと防災無線で全部がカバーできるなんて、それは無理なんです。例えば、議長のお住まいの船ノ原、やっぱりあそこまで谷合いになってくると、聞こえるところと聞こえんことああすもんね。ですので、それを考えたときに、もう絶対にFM局というのは必要です。

で、24年9月で議会のお力をかりて電界調査をやったときに、僕は報告を受けました。ある一部分がやっぱり聞けないんですよ、武雄の場合は。一部分が聞けないんですよ、どんなに頑張っても。ですので、それで、じゃあやらないかということも議論をしたんですけども、そうであっても、60点でもやろうよということで、今、私自身は判断をしています。ただし、行政にはノウハウがありませんので、ことしの4月に総務省の地域おこし協力隊という制度があって、この制度でお二人を招聘します。1人はテレ朝のディレクター、もう1人は、全国にコミュニティーFMを立ち上げた技術の非常に秀でた方がいらっしゃいますので、この2人を招聘して、地域おこし協力隊になっていただいて、FM局の開設に向けて実際動いてもらおうということは思っています。ただ、これは御存じのとおり、総務省の認可事項なんです。認可事項ですので、今、私が立ち上げると言っても、すぐは立ち上がらないんですよ。ですので、そこはきちんと制度設計をして、あと、これはやっぱりね、財政上の話、これは事務方の言うとおりのことです。財政の課題があります。それと、スポンサー集めもあります。ですので、これもしっかり検討していきながら、そこも後顧の憂いのないように武雄モデルというのをつくっていきたいと思っています。

そういう中で、私がうれしいのは、やっぱりフェイスブックをやられていない方々がほとんどなんです。武雄市内って。そういう人たちが、市長さん、いつFMでくっつてますかて聞かれますもんね、地域回りばしよったら。そのときに、こうおっしゃるんですよ。武雄市もお金のなかけんね、私がディスクジョッキーで出ますて、その辺のおぼっちゃんの言わすわけですよ。それが本当の意味での市民参加なんです。ですので、そういう意味できょうもディスクジョッキーになれるような中島さんて来ていますけれども、そういう方々をきちんとやっぱり取り入れることによって、市民協働型のコミュニティーFM局をぜひ開設していきたいというふうに思っております。ただ、場所とかね、最初、図書館にしようかなと思ったんですけど、図書館も、もう図書館オンリーというかね、それでFM局を開設するような場所ありませんので、恐らく局そのものについてはこの庁舎が、朝長議員からも質問があったように、多分、庁舎の中の一角がコミュニティーFMの局になっていくということと考えたいなと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に私の年齢でも、フェイスブックとは何ぞやとか、FB良品を買いたいけど、どうしたらいいのとか、いろんな声が上がってくる中、こういうFM放送で流れてくると、より多くの人がそれに参加することができるんじゃないかというふうが一番に思ったんですよね。本当に平等に情報をとることができるんじゃないかなというふうに思いました。

あと、大友さんのところへ行ったときに、やっぱり台所にラジオがあり、洗面所にラジオがあり、リビングというか、こたつのところにラジオがあり、本当にまだ恐怖にさらされて生活されているということをおっしゃるんですね。何かちょっと音でもしたら、すぐラジオという感じで、やはりラジオが一番情報をとりやすいというふうにもおっしゃっていたんですね。

あと、今やっぱり建物がみんなガラス窓というか、サッシが二重になっているから、なおさら外のそういう防災無線機の音がとれないということがあそうなんですね。だから、そういうものを密に、さらに防災無線機をより多く建てていくよりは、こういう、お金はかかるでしょうけど、FM放送局の開局というのがいろんな面で解消してくれるんじゃないかなというふうに私は思いました。情報としてもですね。あと、いろんなことを、商品とか、企業とかも宣伝とかしたかったら、協賛金というんですか、コマーシャル代というんですか、そういう形で運営をやっていけば、ある程度できてくるんじゃないかというふうに、素人考えですけど、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そういうふうにごやっておられるコミュニティーFM局ってあるんですね。例えば、FMうるまは、これはインターネットでも配信されていますので、聞くことが可能なんですけどね。これはどういう運営をしているかという、会社とか病院が番組の枠を丸ごと買うということなんです。例えば、1時間を20万円とかで買うと。それで、その中で、例えば、当該病院はそこで健康講座をやるというやり方をやっているんですね。ですので、恐らくうちもそういうパターンがあると思います。

ですので、番組枠を、これは時間帯によって多分変わってくると思うんですよ。たくさん聞いてくださる時間帯というのは、やっぱり高く設定しているとかというふうになると思いますので、番組を市民、あるいは企業、NPO、病院とかに売っていかうことを思っています。その中で、先ほど申し上げた健康講座とか、食育講座とかというのをやってもら

おうと思っていますし、徳島のコミュニティーFMで一番人気があるのは、高校生とおばあちゃんのかけ合いが一番人気があると。お互い何を言っているのかわからないというのがすごく人気があると聞いていますので、そういう市民パワーも、武雄高校の放送部も含めてね、あるいは青陵中であるとか、武雄中であるとか、そういった若いこれからの世代のパワーを活用すると。で、その人たちがすぎすぎですよ、絶対、親とか、じいちゃん、ばあちゃんも聞きます。ですので、そういうふうによく市民パワーをね、まあ、ちょっと僭越な言い方になりますけど、活用をしていくことが大事だろうと思っています。

それを、今、音楽もですね、これはおかげさまで、JASRACがすごく理解してくれたと思うんですけども、我々が最初、10年前、僕、インターネットFMを高槻で立ち上げた張本人の一人なんです。そのとき、コミュニティーFMを立ち上げようと思ったんですけども、物すごく音楽を流すにもお金がかかったのが、今、コミュニティーFMで音楽を流すといっても、年間でも10万円とか20万円の世界なんですね。前は桁が違っていたんですよ。ですので、音楽もやっぱり配信をしたいですよ。

だから、そういうふうにして、やっぱり今、お金がそんなにかからなくなってきていますので、せめてこれがコミュニティーFMがひとり立ちするときに、そういうスポンサーであるとか、そういったところから人件費ぐらいはきちんと元が取れるようにしていく、そのための応援はぜひ必要だと。これは行政が丸抱えだったら、番組もつまらないし、全然おもしろくもなんともないんですよ。ですので、そういうふうにはひとり立ち、一本立ちできるように、我々は応援をしていく必要があるだろうと。で、当然、この議会中継もスーパーコンテンツとしてFM局で流していきたいと思っております。後で議員さんたちの解説があったら、またなおよろしいというように思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にここは期待したいなというふうに思っております。誰でもよく作業しながらとか、何かながらにですね、よくかけるのがFM放送なので、よければ自分たちの地元の情報が入ってくるFMというのはとても魅力的じゃないかというふうに思っております。ぜひともこれが早く開局できるように整えていただけたらなというふうに思います。

それでは、次の質問に行きます。項目の2番目ですが、経済政策の公共事業の促進についてです。

もうこれはストレートに言わせていただきます。いつも私が挙げさせていただいておりますモニター、すみません。（モニター使用）これが梅野有田線の通学路がないところです。これは私がフェイスブックで、朝のふれあい運動が終わったときに挙げさせてもらって、本当にコメントもいろいろいただいた写真ですが、この政策で議会改革のときに市長が、この

お金はどういうのに使われますという形でおっしゃいました。それが道路の安全点検とか、防災事業、それに農業の暗渠排水とか、学校の施設などに使われていくみたいにおっしゃいましたね。

私は、もう本当にストレートに言わせていただくのは、この財政政策って、一時的な公共事業の促進で挙げられますが、結局、未来の子どもたちの借金になると私は思うんですね。ならば、ぜひとも毎日の通学がこういう状況で行っている中、何とかその事業費を充てるのが、補正なりなんなりですね、できないかなというふうに思っております。46億9,000万円がいろんなことに振り分けられていくでしょうが、ぜひとも取り残された歩道のない県道を何とかしていただきたいなというふうに、ここで言わせていただきます。

部長さんも一生懸命頑張っていたら、ここのちょっと手前になると思うんですが、側溝を全部やりかえて、70メートルほどきちんとふたをする、それぐらいまでしか今のところできませんということでおっしゃいました。今山区にも区長さんが、県道の問題はありますが、武雄市も一生懸命頑張ってもそういうところまでしかできませんという報告もありました。この側溝を70メートル掘り返してふたをすることで、ちょっとだけ広くなりますということなんですが、この経済政策のこういう対策、緊急経済対策のお金をぜひともここに緊急に回していただくことはできないものかというふうに考えるものですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ここは私もね、自分はランニングでよく使うんですけども、やっぱり子どもたちが、結構大型のダンプが多くて、風圧で飛ばされる、僕ですら風圧で飛ばされそうになるぐらいのところなんです。ですので、非常に危険だということは認識は、それは議員と全く同じです。

その中で、これは稲富県議に頑張ってもらって、県道梅野有田線ですよ、ここで、まず水尾団地のところというのは、前のところは拡張歩道として予算が今度の補正でつくことになりました。これが1億5,000万円です。ここをどうするかということについては、その水尾団地の前の歩道が完成してから次に取りかかりたいということですので、これはどれぐらいかかるんですかということを知ったら、早くても2年後だということを知りました。

ですが、もともと補正の前というのは、水尾団地の前ですらね、話はなかった話なんです。これは稲富県議が頑張って、言い方は悪いんですけど、ねじ込んだんですね、あの突破力で。ですので、今度また補正が出てきます、恐らく、今の感じで言うと。そのときに、2年後と言われてはいますが、これは早く早くということは私自身も力を尽くしていきたいと思っています。ここが危険だというのは十分認識をしております。ただし、何もやらないよりは、さっきも言ったように、側溝ぐらいは速攻でつけよう。

ですので、それでできない理由よりできる理由、そして、少しずつでもよくしていくということについては、それはきちんと意を払っていきたいと思っております。これは区長さんとか、山口裕子議員さんとか、もう本当にこれは一生懸命やられて、よく承知しています。ですので、その気持ちに答えるべく、我々としては、これはあくまでも県道なんでね、それは私がやるとかやらないとかの世界じゃないということなんですけれども、自分ができることは精いっぱいここはしていきたいと思っております。事故があつてからでは遅い。それはよく認識をしております。ただし、公共事業というのは、いいも悪いもこれはありますけれども、順番というのはやっぱりあるんですよ。そこはぜひね、本当に申しわけない、心苦しくは思うんですけども、そういった点を共有をしていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

それは今までそういういい答弁を聞きながら、やっぱりどこも危険なところを最優先だからですね、承知しています。このたび、緊急経済対策という形で46億9,000万円ということだったからですね。

それと、ここが、ダンプがすごく行き交うようになったんです。それは、梅野が本当に歩道つきの拡張された道路がきれいにできましたね。で、こちら伊万里から大野までの線がきれいにできましたから、ここだけが取り残されてしまったわけですよ。だから、山口工務さんの前、今山からおりていったところですが、そこは何回も何回もアスファルトがひび割れて、何回も何回も補修しているわけですよ。対応できないんですよ、トラックが行き交う量がふえたからですね。だから、このアスファルトでさえ対応できない状態で、ここは取り残されているので、そこもちょっと写真に撮ってきていなかったですが、そこも承知していただきたいなというのと、これが本当に46億円もついてうれしいなと思うけど、このお金というのは次世代の借金だと思うんですね。ならば、ぜひとも学校の通学にですね、とてもこういう状況で危ない中行っている子どもたちを優先してほしいなという気持ちで、歩道をもう一度ここで言わせていただきたいなというふうに思いました。

それと、宮下部長も先ほどですね、みんなのバスでどれくらい利用が減るかというところで、ひょっとしたら大野病院まで行かれる人が歩いていくというので減るかもしれないと言われたんですが、本当、確かにここは歩道があれば、皆さん歩いていける場所なんです、大人も怖くて歩けないわけですよ。だから、きっと高齢化のおばあちゃん、おじいちゃんたちも、大野病院までは歩いていける距離なんですよ。だけど、ここに歩道がないし、吹き飛ばされそうになるので歩けないという状態なんです。だから、きつとうちは減らないで、みんなバスを利用されるんじゃないかなというふうに思ったところです。

再度ですね、部長、本当にこの対策にお願いできないかというところで答弁いただきたいです。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

山口裕子議員さんには何回となく御要望いただいております。私としては非常に心もとないものでございまして、歯がゆい思いもしておりますが、先ほど市長が答弁しましたように、この路線は山内町区間に限りまして、歩道がほとんど整備されておられません。現在、2工区にわたって、宮野工区——水尾団地のところですね、それから大野工区ということで着手がなされております。このうちで、宮野工区——水尾団地のところです。これに一昨年から重点的に予算が配分されておまして、24年度もたしか1億円、今年度、25年度は補正を含めまして1億5,000万円ということで、とにかくそこを早く終わりたいという県の考え方でございまして、その後、めどが立った時点で今山工区に着手させていただきたいということが明確になっております。したがって、年度的には明確にできませんが、2年程度まだかかるだろうという話を聞いておりますので、そういう時期になろうかなと思います。

それから、あわせて危険箇所の点検が昨年ありました。この関係で、24年度の予算、これは国の経済対策の予算でございまして、この予算をもって、小規模ではございますが、先ほど議員御指摘の側溝の反対側のところをですね、70メートルという距離でございまして、していただくようになりました。あわせて、路面の標示を若干減速するような標示になっているかと思っております。以上のような対策でございます。

先ほど市長が答弁いたしましたように、一日でも早く、一年でも早く着手できるように、県議さんたちの応援を受けながら進めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろ重々わかっております。しかし、学校施設とかにも充てられるようになっていますが、まず、学校施設までに行く子どもたちの歩道ですね、宮野も本当に危険というのわかっていますし、ここの状況が今もう本当に悪くなっているんですね。大型トラックが朝早くから頻繁に行き交う、そういうことも踏まえて、緊急として対応してもらいたいなというふうに、またここで言わせていただきたいなと思って挙げさせていただきました。

また、県議さんたちもこの状況をしっかりわかっていただいて、推してもらわなければならないと思いますが、本当ここで充てられたのが、私たちはできるだけ子どもたちに負担のない社会に思っているのです、ぜいたくは言わないと、道路の拡張は要らないから歩道だけをというふうに最低限で要望してきておりますので、そこら辺を踏まえてさらなるですね、

できるだけ、ちょっとでも早くできるようにお願いしたいものです。わかりました。

それでは、次に行かせていただきます。3番目、武雄市の国際戦略についてです。

これも先ほど川原議員と重なったところがありますが、まず、私は香港ですね、佐賀県が香港事務所を開設するという形で、武雄市は笠原職員がそこで働くようになりました。その後、中国等の情勢も悪くなったりして、どのようになったかわかりませんが、香港はその事業に対してどうだったのか、実績とか、そういうのをお聞かせいただいたらと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

香港の代表事務所に職員を1名派遣しておりますけれども、流通面とか、あと観光面で頑張ってもらっております。その中で、流通面におきましては、香港及び中国大陸、これは南部のほうですけれども、そこの市場調査、あるいは日系スーパー等へ特産品のサンプルを持ち込んで、そこでの情報収集に努めているところであります。それから、観光面では、香港及び大陸南部において、武雄市及び県内への観光客の誘致を目指して、現地旅行社にセールス活動を行いながら、ツアープランの提案まで行ったところですが、昨年の尖閣諸島問題等の影響によりましてツアーが中止になったというふうなことで、手応えが出始めているというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

実績があったのか、なかったのか、よくわからないみたいな感じですが、はっきり観光で、そういう経由して武雄にどれくらいの観光客の方がいらっしやったとか、商品的にはどれくらいアピールすることができたとか、数値的なことで示すことができなかったとは思いますが、じゃあ、市長は香港に職員を送って、香港の実績としてはどう思われたのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとやっぱりあれなんですよね。出して1年で実績を求めるというのは、それは酷だと思えますよ。しかも、我々が想定し得なかったような中国と日本との関係悪化もあって、そういう意味で言うと、当初の予想からすると、すごくやっぱりまだ歩どまりが悪いということをおっしゃるを得ないんですが、それでも笠原を中心にして、本当によく頑張ってるね、先ほどちょっと答弁でもあったと思うんですが、ツアーの造成であるとか、いろんなインバウンドとか、本当に彼はよくやっております。ですので、そういう意味でいうと、

こういう厳しい条件の中では、やっぱりいいスタートが切れたなということは思っています。それは古川知事のすごい熱意も、私どもひしひしと感じていますので、古川県政が香港を中心として、中国の例えば物品であるとか、いろんなインバウンドとかというのは一生懸命やられていますので、それは我々としてもできる限りのことはしなきゃいけないということは思っていますので、そういう意味で言うと、いいスタートは切れたと。

それと、今ちょっと私が何うに、政府間の交流は日中で非常にまだ悪いんですが、草の根の交流はもう始まっているんですね。実際、中国で、これは言うなと言われていまして、言いませんけれども、僕は口が非常にかたいので。中国でも幾つかの政府の要人がお見えになっています。佐賀県にも、日本にも。これね、すごい話で、来たことは言うなと言うんですね。何じゃ、そりゃと思ったら、やっぱり中国の中にも日本、これは日本人でも言われましたけど、やっぱりそれは快く思わない方々もいらっしゃるということですので。ただ、そうはいっても、そういうふうに着実に改善に向けてなっている。

やはり、私は中国に対してはいろんな思いがあります。領土問題もありますけれども、そういう領土問題とか、過去の歴史とか、いろいろ日本も反省しなきゃいけないのはあるんですけども、そうはいっても、やっぱり隣人の国とは特に仲よくしなきゃいけないと思いますよ。ですので、それはやっぱり私どもも草の根交流の一環として、いろんな国としての問題、課題というのは双方あるにしても、そういう心豊かなというか、心温まる交流というのは絶対必須だと。私も中国人に何人か友達があります。いますけど、本当にいい人たちなんです。靖国の話をすると顔つきが変わりますがね、これが教育の成果かと思いがね、それ以外については本当にいい人です。すごく友達も大事にされますので、そういう温かい交流をね、我々地方政府、行政がちゃんとやっていく必要があるだろうということは重ねて思う次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

1年という形では、なかなかそういうのは見えてこないということもわかりました。今回、シンガポールという形で、FB良品とか、ほかの自治体の市長さん、首長さんたちが参加されて商談会があったわけですが、そのときは本当、シンガポールは自分も初めてだったし、ああ、こういうふうな社会だったのかというふうには、とても治安もよく、企業家の方たちがいろんな国から集まってきて、とても元気のあるというか、人と物とお金が集まってくるようなすごい都市だなというのを感じました。

という形で、市長が今回の議会開会のときに、次はシンガポールですと言われた意味も、ああ、そうだなというふうには思ったんですが、じゃあ、これからはシンガポールをどのようにつなげていくのかなというところでお考えをお尋ねしたいなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この前、山口裕子議員にも御参加いただいた、写真をちょっと用意しましたので、商談会のね。そのモニターをかえてほしいと思うんですけども、（モニター使用）私が端っこにいて、真ん中がすごい大物バイヤーの方で、嬉野温泉のはっぴを着られた方が谷口嬉野市長さん、そして、その隣が塚部伊万里市長さん、で、白い服を着られた方が大刀洗の町長さん、そして、真ん中のこっちの町長さんが那須町長さん、そして四国の宇多津町長さんで、私ということになっています。

これからの首長というのは、もう現地に飛び込んでいくと。やっぱり話が早いんですよ。もう嬉野市長さんなんか最高に早かったですよ。もうそこで決めていましたから。ああ、これはもう僕は非常におくてなんでね、やっぱり見習う必要があるだろうと思いました。ですので、やれ出張だとかなんとかね、またいろいろ言われるとは思いますが、費用対効果で言うと、やはり僕ら首長が行って、そこでいろんな、例えば、商談をしたり、あるいはいろんな交流を持つというのは非常に大事だと思っていますので、私も市長会では浮いていますけど、浮いていることを生かして市長さんに呼びかけていきたいと。このときは日程が合わなくて気の毒だったんですけども、鹿島市、小城市の担当部長さんもお見えだったんですよ。ですので、そういう意味で、オール佐賀県でやっぱりやっていきたいなということを思っています。

シンガポールの皆さんたちも、武雄だけとかいうのはあり得ない話なんですよ。ですので、佐賀県を中心として、地方の産品ですよ、それがうまく観光につながるようにね、ASEANは御存じのとおり6億人の市場があります。しかも、ユニクロの柳井会長兼社長がおっしゃったとおり、もう黄金郷だと言っているんですよ、今。所得もどんどん伸びていっている。ですので、中国のような不安定なリスクが極力ないということと、英語がきちんと通じることからして、県は一生懸命中国をされていますけれども、私たちは、少なくとも私の考えは、基礎自治体はシンガポールに目を向けるようにね、微力ですけど、私自身が先頭に立っていきたいと思っています。

そういった中で、やはり地域の所得向上こそがこれからの社会に一番求められていることだと思っていますので、世界と地方をきちんとつなげるということ、それと、僕が武雄市議会の皆さんたちにぜひ期待をしているのは、やっぱりこれですよ、これ。もうトーク、トーク、トークです。ですので、私の100倍ぐらいトーク、トークの人たちがその辺ごろごろいますもんね。こっちもですよ。ですので、ぜひそういう意味からして、市議会のお力を存分におかりをしないと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

F B良品とかでされると、本当に世界につながっているんだなというのも感じたし、やっぱり国内市場が縮小していく中、アジアというのは大きな市場であるということも今後考えていかなければならないことを思って、シンガポールも本当に武雄市にとっていい観光資源とか、商業施設の一つになっていくように私も願っていきたいものと思います。

それでは、次の質問に行きます。4番目の子どもたちの支援についてお尋ねします。

いじめの問題とか、虐待とか、いろいろな形で最近子どもたちの支援の仕方とかが挙がっておりますが、私は、いろんな保護者の方から意見をいただくんですが、学校に特色があって、そこが選べるような形は今後できないかというふうによく尋ねられます。それは、子どもたちも少なくなってきたので、ちょっと言うならば、ブラスバンドとかをやってみたいんだけど、うちの中学にはブラスバンドがないから、武雄のブラスバンドに入れなかなとか、そっちに行きたいんだけどとか、そういう声も出てきているんですね。

今、やっぱり周辺部とか、子どもたちもどんどん減っていきまして、ちょっと調べてもらった中でも、もう若木小はいつも牟田議員さんがおっしゃっていますが、本当、若木小はもう100人切って97名というふうに資料を出していただきましたし、西川登小も107名、東川登児童も110名、あと、北中も113名とかですね、本当に子どもたちがふえるような政策を一生懸命する中、やっぱり減ってきているのが実情なんですね。そのときにお母さんたちが、何か特色のある学校づくりとか、そういう形で学校が選べることはできないかというふうによく尋ねられるんですね。だから、できないことはないと思うし、そういうのをどうやってやっていけばいいのかというのはお尋ねしてもいいんじゃないかというふうに私は思って、今回出させていただきましたが、まず、部活動というのがもう成り立たなくなって、社会教育の中でやっている人もふえて、とにかくうちの山内なんかバドミントンが盛んで、嬉野のほうから学生さんが親の送迎で山内に習いに来たりとか、バトントワラーとかが盛んな嬉野には、山内西小学校の子どもさんがやっぱりそっちへ送迎して、放課後に習いに行くとか、いろいろな形で社会教育はあっているんですが、学校の部活とか考えたときには、どのような形に今後なっていくのかなというふうにとちょっと思いまして、教育長さんにお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

部活動につきましては、お話にありましたように、絶対数が減っているというところで、生徒、保護者の方の御意見等も踏まえて、それから指導者のことも踏まえて、休部したり、廃部というのが確かにふえているのは事実です。ただ、例えば、1年生が卒業まで続け

たいというのもありますので、人数が少なくても続けているところはありますし、現在では体育連盟のほうでも、2校合同のチームで出場すると、そういうことも現実にあっております。そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

別に僕、教育長に、僕は尊敬していますので、別に盾突くつもりは全くないんですけど、それだとやっぱり不十分なんですよ。2校合同とやってやっても進まない。ですので、ぜひ私が教育委員会に提案したいのは、やっぱり部活で、例えば北中、牟田議員様の出身の北中がね、例えば、いろんな部が廃部になったりするじゃないですか。そうすると、武雄中は今でもマンモス中じゃないですか。そうすると、学校は北中でやって、その後の部活は武雄中でやりますとかというふうにしないと、2校合同とかという、もうそこで心理的な壁になるもんね。

ですので、僕はむしろ、部活の校区外しをぜひ提案したいですよ。そうすることによって、多分、集まれば競争の原理がまた生まれるんですよ。それと、今までなかった交流が僕は生まれてくると思うんで、部活を最初にきっかけとしてね——僕は校区が大嫌いなんです。おかしいじゃないですか。自分のところはここにお住まいだから、ここしか行けないって。ですので、やっぱり行きたいところに行くと。ただし、これは学校制度を、それをいきなりやると多分混乱が生じるので、まず、できるところ、例えば、部活とかを校区を外して、そういうところでしたいというような、例えば、保護者のお気持ちとか、生徒の気持ちを十分にそんたくすべきだと僕は思いますけど。これができないことはないんでしょう。——できると、うんと言っていますので、そういう方向でぜひ教育委員会には検討してほしいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

この子どもたちの支援の中の一つで、なかなか思った部活動がやれないという形で相談を受けていましたので、今後、校区を超えて部活ができるというような形になっていくというふうに考えてもよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

できますと言いましたのは、現実には中体連前とか、一緒に練習しないと試合に出られないわけですから、実際にそういう形でやっているわけです。そして、片方は、団体スポーツが

3人とか4人しかいないで、練習の練習しかできないと。そしたら合同での練習というのは可能な限りやっている状況でありますので、そういう形で言ったわけです。

青陵中ができたこともありまして、そういう中での動きというのも一つ考えられる。それから、もう1つは、やっぱり指導者の問題がやっぱりあるわけです。非常にまた、学校の先生方の数も減っていますので、こちらの部活でというようなことも出てくるわけです。普通、ほかの学校に行くといったときには、常に話題になるのは、地域の子どもたちの活動等が片方には必ず問題としてなってくるわけですが、そういうことまで含めまして対応していきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、少子化がどんどん進んでいく中、やっぱりいろんな対応が必要になってくると思いますので、いろんな課題を一つ一つ片づけて、可能な選択ができるようにしていかなければいけないんじゃないかなというふうに私は思います。

子どもたちも減っていく中に、やはり学校自体が分校みたいな感じにもなってくるし、それはそれで、とてもいい特色のある学校運営とかになっていけばいいと思うんですが、あと1つは、保育園とかも選んでいけて、自分の、ああ、こういう趣旨のある保育園に行きたいなという形で、武雄のほうからもよく通われている、多久市にさくらんぼ保育園というのがあるんですね。そしたら、さくらんぼ保育園に通っていて、食事にも十分な自然食を使ったり、遊び物をつくられた遊具ではなく、全部自然のもので遊んだりという保育園に通っていて、じゃあ、今度学校を選ぼうといったときに、ああ、できるだけ木の素材の若木小学校がいいとか、その人は武内から保育園に通っていてもですよ、あと、武雄から通っていても、ああ、若木の自然のあるところに通いたいとか、そういう意見で相談をされたわけですね。だから、今、多久市も小・中が一緒になって、通学バス16台を用意して、新しい学校の施設になるように、今、そういう時代に来ているんじゃないかなというふうに思うので、市長の見解としても、そういう捉え方というか、学校の枠というところを、特色ある学校づくりで選んで学校に行けるといふ形はどうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現に、例えば、若木小学校であるとか、武内小学校であったり、これは北方小学校もそうなんですけれども、物すごく急速に減っていているわけですね。今のままだったら、部活はおろか、学校の活動すらできない。そういう意味でいうと、私は校区はないほうがいいと思います。そうしないと、学校間の競争って、やっぱり起きないんですよ。ですので、僕

は5年ぐらい前に言って、なかなか理解されませんがね、例えば、若木小学校だったら、アレルギーの子たちに対応する給食を出しますといたら、これは全国から来ますよ。みんなアレルギーでやっぱり悩んでいるんですよ。みんなというかね、本当に悩んでいる方は本当に悩んでいるし、これは場合によっては、よその小学校でありましたけど、死に至る話になりかねないんですよ。だけど、アレルギーの子たちというのは、話をじかに聞いてみると、何で私が食べられないのって、みんなが食べられて、完全に隔離しているじゃないですか、食べ物。それで非常に気持ちの負担というか、心の負担にやっぱりなっているんですよ。

だから、そういう意味でいうと、特色のあるね、例えば科目、あるいは給食、すごい給食って大事だと思っているんです。ですので、例えば、どここの小学校は地元でとれた有機のやつを出しますと。だけど、いっぱいとはれないから、1組と2組では中身が違いますと。いいと思いますよ、人間も違うんだから。上田議員と僕も全然違いますよ。だから、それを無理に合わせるんじゃないくて、統一したものに合わせるんじゃないくて、やっぱりあるものをちゃんと出していくということをしたときに、やはりここは、僕は競争が必要だと思っています。

ですので、人が少ないから減っていると嘆いているばかりじゃなくてね、例えば、固有名詞を挙げますよ。若木小学校だったら若木小学校、北中だったら北中って、全国から集まると。例えば、不登校の子は全部武雄北中に集まると。みんな悩んでいますもん。そこにちゃんと寄宿舎をつくってやると。それは武雄市内でもね、例えばいじめ、僕も聞いたことがありますよ。例えば、武雄中学校でいじめを受けている子がどこか転向したいと。だけど、もうずっと一緒だとなると、それでできない。だけど、それはできるできないは別にしてもね、いや、私は北中に行けますとか、川登中に行けますという選択肢があるだけでも、子どもたちの気持ちって絶対違うんですよ。

ですので、そういうふうに関係型、競争型のをするには、やっぱりどんなに努力しても、校区がある限り絶対だめです。だから、僕がさっき言ったように、まず、部活で校区を外して、それを見ながら学校の校区も外していくということは、僕は絶対必要だと思っていますし、僕もニュースで見ました、多久の。上田議員さんなんかは、みんなのバスの活用がいいんじゃないかって。僕もそのとおりだと思うんですけど、これはやっぱり本数が足りないんですよ。ですので、そういった意味でのスクールバスで、我々行政として応援をするということは僕はありだと思っていますので、これはよく教育委員会と議論を、で、議会は議会でそういう提言をしてほしいんですよ。議会の議員の皆さんたちというのは、民意のかがみなんですよね。ですので、議会としてこういうふうにあってほしいということは、ぜひ提言をしてほしいと思いますし、私自身は今そういうふうと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やっぱり1クラスで、どうしても合わない子どもたちとかがあって、自分たちのときは次、来年はクラスがえだというふうにして、また、その子たちと別になったりとか、クラスが変わるからそれで消化されていたものも、もうずっと6年間1クラスしかなかったら、ずっとそれでいくわけですよ。だから、そういうのも一つの選択肢として、こういう形で学校があればいいなというのと、今ちょっともう、いろいろ調べると、西川登小学校は小学5年生は10人切って9人というふうに報告があっているんですね。そういうふうになると、今度は少な過ぎて、何か一つのグループ活動とか、いろんなのが学習的にも困難になってきたりとかする状況も出てくると思うので、私が山内町の議員のときは、まだ少人数学級をとかいって要望する時代だったんだけど、数年でこんなふうに、そんな要望どころか、もう要望なしでクラスは9人とか10人になっているわけなので、このような社会変化を経て、やっぱり子どもたちの支援のあり方も考えていかなければならないんじゃないかなというふうに思っております。

1つは——モニターをお願いします。（モニター使用）よくここの議会でも挙げられていますが、これはスクラムさんです。スクラムさんというのは支援学級教室ですよ。これは一般の教室に入れない子とか、要するに不登校さんという形でここに通ってくる子どもたちなんですけど、とてもいい成果を上げているというふうに聞いています。今現在、15人ここにいらっしゃって、5人は武雄市外からなんです。いい成果を上げていらっしゃるし、やっぱりどうしても、いじめとかいろんな事情があって、ここを物すごくいい居場所として過ごして卒業ができるという、一つの典型的ないいクラスだと思うんですね。だから、これがやっぱり山内のほうからも何人か通ってこられているというふうに聞きますし、これが武雄市に1つじゃなくて、山内にあったらいいんじゃないかなというふうにも声を聞きます。

だから、今やっぱり学校の対応の仕方、どうしてもクラス、幾らいじめはあってはいますか、あってはませんかとか、虐待はどうですかといういろいろ聞いても、本当に結果的に見えてこないものって多いんですよ。だけど、クラスに入れないとか、学校に行けないということは確かにあるわけだから、やっぱり子どもたちが選択できるということが一番じゃないかなというふうに私は思いますが、教育長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

スクラムにつきましては、清香奨学会の御支援をいただきまして、現在、不登校の子どもたちがここまでは行けるぞということで頑張ってもらっています。例えば、今年でありますと、全部の子どもたちが毎日来られるわけじゃありませんけれども、在籍としては15名

ほどの子どもさんたちがですね、大体10名前後だったかと思いますが、通っている状況でございます。

子どもたちもいろんな考えがありまして、近くがいいとか、あるいは離れとった方がいいという子どもたちも、それから、ここはもうちょっと飽きた、学校に行ってみようという子ども当然おるわけですし、武雄中学校にはこのスクラムの分室という形で、まだ教室は入れないけど、ここまでは来られますよと、そういう子どもたちもいるわけでありまして、そういう体制で現在進めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今、子どもたちはやっぱり地域にはなかなか行けないけど、有田からここ武雄だったら通ってこられるとかですね、それと今、いろんな発達障がいとかいう子どもたちもふえていて、自閉症とか、ADHDとか、アスペルガーとか、いろんな発達障がいを持ったお子さんたちなんかはとても、同級生は苦手なんだけど、異年齢の中でだったらうまくやれるとか、いろんな成果とか、そういう形があって、フリースクールのじゃないですが、異年齢で学ぶ場所とか、そういう新しい学校がいろいろ、全国にはフリースクールという形で運営されたり、そういうのがちらほら見えてきておりますが、あと、市民の皆さんから言われるのは、（モニター使用）これが立野川内分校になるんですが、これの活用、前回は挙げさせていただきましたが、今ここは分校で利用されていますが、よく言われるのが、ここに支援の学校みたいな感じはできないのかというのをよく尋ねられます。それは今ですね、数年したらまた入学してきますよとか、いろんな形で人数はそこそこ変わるんですが、やっぱりもう子どもたちが少ないから、分校はとっても数が少ないです。で、本当に僻地とか、山の上とか、そういうところのお子さんとか学校施設だったら、本当の意味で分校は必要ですが、この立野川内分校は学校も本校も見えているし、どっちを本校にしたらいいのかなというぐらいの距離なわけですよ。やっぱり立野川内もことしは1年生が4人、2年生はゼロという形で、ここは4人の方が利用している分校ですよ。で、体育館もついて、学校施設があるというわけですね。だから、こういう形の施設を利用して、もっと学校は変わっていったいいんじゃないかなという意見をお聞きしますが、その辺の考えの点では、市長さんはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは所管が教育委員会ですので、教育委員会には教育委員会のお考えがあると思いますので、これは私の市政を統括する立場ではなくて、個人的な見解でよければ、ちょっとお許

し願いたいんですけど、私は、何というんですかね、私も不登校だったんですね。武雄高校時代、立派な不登校生で、もう本当にあと1日休んでいれば卒業できなかったというぐらい重度の不登校だったんです。私は、議員の皆さんたちは信じられないかもしれませんが、集団行動ができません。協調性も皆無です。友達も、皆さん以外ほかにはいません。ですので、そういう悩みを持つ若い世代って、僕も直接接したことがありますけど、結構やっぱりいるんですよ。今の学校ではどうしてもなじめないって。ですが、学びたいという、僕もそうだったんですよ。

ですので、そういう子たちというのは全国にいると思うんで、できればコミュニティースクールですよ、文科省のいう。あるいはフリースクールをぜひ武雄でもやりたいと思っているんです。そのときに新たに校舎をつくるというのは、これはもうナンセンスのきわみですので、そういう意味で、例えば、こういう分校とかね、例えば、空き教室があるのであれば、そこにまずね、小さくしていくのはありだなと思っています。

ただ、これ運営が、市が行うというのは到底これは不可能な話ですので、図書館をCCCと今連携してやっているじゃないですか。ああいう形で、例えば、病院だったら、形態はたがえども池友会の皆さんたちとやっているということがあったときに、民間のすぐれたね、やる気のあるパートナーをぜひこれは探したいと思っていますので、今度の私がやるべきことは教育です。しかも、地域の教育、画一的ではなくて、生きる力を育てる、あるいは武雄を本当に誇りに思ってもらおうと、そういう教育を武雄にもぜひ根づかせたいと思います。そうすることによって、やっぱり近くに通いたいという方がいらっしゃると思うんですよ、市内でも。ですので、それは小学校になるのか、中学校になるのか、高校になるのか、まだわかりませんが、そういった形での企業誘致じゃないですけども、そういうパートナーをぜひ引っ張ってこようと思っていますので、これは御期待ください。

ですので、もしうまくまとまれば――まとまればですよ、これは相手のある話ですので、来年の4月に発表したいと思います。来年度じゃなくて、来年の4月にこれは絶対発表して、こういうフリースクール、コミュニティースクールを武雄でぜひ設置するというのが私の次の政策課題です。病院が落ちついて、今度図書館がもう落ちついてます。いよいよ本丸です。これは議会の皆さんとともに、やっぱりこれは上田議員からもたびたび質問がありますけれども、学ぶ場が近くにあるというのは絶対大事です。ですので、そういう意味で私自身、力を注いでまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。もう一度教育長にお尋ねしたいんですが、やっぱり分校は分校でなければならないというのではなくて、使い方というところをですね、子どもたちを支援し

ていくというのに枠を外したというか、そういう形でここが大きく利用価値が上がるような、分校も含めてですね、そういう形になっていってほしいなという願いに対してお答えいただきたいというのと、とてもよかったなと思うのは、私はちょっと議員研修かなんかで参加できなかったんですが、学力向上のタウンミーティングというふうに、地域の学校区の方たちとの対話集会があったと思うんですね。その中でいろいろ声が上がったと思うんですが、どういふ声が大きかったのかなというのをお聞きしたいですね。

今後とも、そういう学校区でいろいろ情報交換というか、そういう対話集会は続けていられるのかというところをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

3点話をさせていただきます。

先ほどの、ちょっと通告を十分聞き取っていませんでしたので、部活につきましては、現状ではかなり縛りがあるようでございます。ただ、生徒の立場を考えたら、先ほどのようなことになろうかと思いますが、例えば、個人競技、これについては現状では合同ができないような仕組みになっているんです。それから、どちらも人数が足りなくて成り立たないと、そういうような何か条件があるみたいですが、ちょっとここは私も今後確認をしていきたいというふうに思います。

もう1つ、分校の件でございますが、各学校とも地域の皆さんの思いというのは、片方には非常に強いのがありまして、分校につきましては、特にそういうふうなことがあります。立野川内につきましては、特に地域の支援も受けているような状況がございます。教室の空きぐあいとかにもよりますけれども、確かに現在は単学年しかないんですが、27年度以降は2学年できるような形ですね。それから、船の原につきましては、27年度なんかは1、2年生で19名というような予定になっております。ただ、犬走のほうは28年度以降ちょっと少ないんですけれども、いずれにしても、状況を見ますと、そういう少ない人数のところもあります。ここ数年でどうこうということは考えておりませんが、当然、各学校の本校舎まで含めまして有効な活用というのは当然のことですので、今後も注意深く見ながら、そして有効に活用していきたいというふうに思っております。

タウンミーティングについてお尋ねがございました。

12月に学力・学習状況調査の結果につきまして、学校別の公表をいたしました。それについて誤解があってもいけない、あるいは一番は、5年間の学力調査等があったわけですが、全国と県の調査等があったわけですが、もう各学校とも先生方は非常に頑張ってくれていると思っております。もう本当に遅くまでであったり、いろんな面で頑張ってくれているんですが、さらに子どもたちの力を高めようとしたときには、やっぱりこれはもう学校と、さら

に家庭の協力、地域の協力をいただくことで、さらに向上させることができるんじゃないかという、そこを第一の目的としてお話をいたしました。そのことは、きょう質問にもありましたように、単に学力の向上だけではないんだということで、心の問題、あるいは、あとのほうで出ましたけれども、やっぱり体力も必要じゃないかというようなことも出ました。そういう意味で非常に、学力向上を中心にしてというサブテーマで開きましたけれども、結果といたしましては、いろんな面の子どもたちのことについて話をお聞きすることができました。

何より、武雄ならではだなど私が感謝しましたのは、雨が降ったり、寒かったりしたんですけれども、3分の1ぐらいの出席の方が区長さんであったり、あるいは民生委員さんであったり、孫世代の方を子どもにお持ちの皆さんが3分の1ぐらいどこの会場でもいらっしやったんですね。これは本当にありがたいと思ひまして、今後もまた地域と一緒に進めていくことができるんじゃないかという期待を強く持ったところでございました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございました。子どもたちの環境もどんどん変わっていくので、支援のあり方もそれに対応して、いろんな形で教育委員会のほうも対応していただきたいなというふうに思っております。

では、最後のおもてなしのまちづくりについてお尋ねします。

最後の中の1番目、花いっぱい運動についてお尋ねします。

モニターをお願いします。（モニター使用）これが今山公民館で、これは2つが婦人会のほうで、大きいほうが老人会のほうです。これですね、老人クラブのほうから置いてある花ですね。あと、ここが公民館は、これは山内町の婦人会が花いっぱい運動をしていて並べているところです。これもですね。これは支所前です。これが、老人会のほうもハナボタンを提供されています。ここが、北方はとってもきれいなサクラソウが、これは北方公民館の前です。これは武雄市役所の前ですね。これは、若木小学校が若木小学校児童一同という形で、4つプランターが並んでいます。

それで、私が一昨年というか、前、議会のときにグリーンカーテンの後の活用をお花いっぱいにしていただきたいなというふうに挙げていたんですが、ちょっと残念ながら、ことしはお花が入っていません。このことなんですが、やっぱり職員さんが多分パンジーとかをされていたと思うんですが、もう職員さんは忙しいと思うんですね。だから、皆さん地域では花いっぱい運動で、各家庭も花をいっぱい植えているし、いろんなボランティアグループがお花を植えているところです。だから、ここのですね、せっかくなさくさんのお客さんがいらっしやって、やっぱり足元は大事だと思うんですね。市役所にたくさんの方が研修なりなん

なり、行政視察なりたくさん来られるので、ぜひとも足元をきれいにさせていただきたいなというふうに思って、あいたプランターの活用を言っていたんですが、ことしはちょっと残念なことに、そういう時間がなかったみたいです。

今後のことを考えまして、ぜひとも花いっぱい運動は自主的にですね、ボランティアとかいろんな形で既にもうやっておられますが、婦人会の場合は環境課に言えば、花苗がその分いただけるようです。そういう形で、市役所の周りもですよ、こんな形で花いっぱいにできないかなというふうに思っています。

あと、ちょっと庁舎の外に出れば、ここが市役所前のバス停、これは委託されているのか、庁内の人がされているのか、私はそこまで調べていませんが、ここが整地されたところの市役所横側ですね、もうすごいお見事、プランターにパンジーが生けられて、それはきれいですね。そんなふうに花いっぱい運動を市内でできたらいいなというふうに思っております。庁舎は特にたくさんお客さんが訪れていらっしゃるの、そういうところでいい形で花いっぱいにしていただきたいんですが、いかがでしょうか、質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

花いっぱい運動ということでございまして、庁舎につきましては、環境課のほうで自主的に、現在、夏場には緑のカーテンをしてもらって、その後にパンジーを植えていたということとあります。24年度、今年度につきましてはパンジーが植えられていないということで、ちょっと寂しいような感じがいたします。そのほかに、都市計画課棟もされておまして、市役所周辺の道路を利用して、街路樹の足元、あるいはプランター等を置きながら景観形成に努めているところでございます。また、その作業をやっていただいている方につきましては、やっぱり周辺の長寿会の方、御船長寿会、天神区、それから武雄市建設業協会の方たちもボランティアとして御協力いただいているところでございます。市庁舎の直接の職員での対応というのは、なかなか今、時間的なものもございまして、議員御指摘のとおり厳しいものもございしますので、今後は少し知恵を出しながら進めていく必要があるかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私自身がこのところって余り通らないんで、今、多分こうなっているんですね。もう早速撤去します。もう見苦しい。ですので、撤去した上で——ただ、今度やるときというのは、ちょっとお願いしようと思っているんですね。うちも残業禁止令を出して、業務は物すごくふえているんでね、なかなかここまで目が届かない。やるにしたら徹底的にやらなきゃいけないんで、実際ボランティアでされている、例えば、老人会の皆さんであるとかにお願い

いしようと思っています。その上で、こういうふうに各種団体が、建設業協会でもやってく
ださっているんですね。ですので、お願いした上でやっていただくということに切りかえ
ていきたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、職員の方ではなかなか手が回らないと思うんですね。でも、お見事なグリー
ンカーテンとかもできていたし、ここは本当に行政視察もこのように並んでいるようにお客
さんは多いので、ぜひともそういう形で、いい花いっぱい運動ができたらいいなというふう
に思います。

それでは、次に、イベントなどの対応についてお尋ねいたします。――すみません、せっ
かくモニターを用意していたので、（モニター使用）2番目に入る前に、佐賀県の佐賀城下
ひなまつりが、ことしは特別に花いっぱいというか、花を生かしたオブジェでひなまつりが
飾られているんですね。やっぱりお花というのはすごく効果があるんですね、まちづくりと
かに対して。このように、ことしは花をたくさん飾られています。そういう意味でも、花の
あるまちづくりというのはとてもいいんじゃないかなというふうに思っていますので、今後
ともよろしくお尋ねいたします。

モニターはいいです。ありがとうございました。

それでは、次の2番目、イベントなどの対応についてお尋ねします。

前日も申しましたけど、物産まつりとか、飛龍窯灯ろう祭りとか、武雄市のイベントがた
くさんのお客さんでいっぱいになる、想像つかないぐらいにお客さんに来ていただくようにな
っていて、その対応というところで、やっぱりもっと考えていかなければ、次の図書館ま
つりとか、市民がゆっくりと楽しめるような形にならないんじゃないかなというふうに思っ
て挙げさせていただきました。

飛龍窯灯ろう祭りは、私は昨年行けなくて、ことしはぜひとも思って車で出かけていた
ら、武内のJAもいっぱいになりました。武内小学校もいっぱいになりました。中川内医院
もいっぱいになりました。最後に用意された北中に上ってくださいということで、上ったの
はよかったんですが、1時間以上そこで待ちました。もう本当に対応をどうしたらいいの
かなというふうに思って、皆さん、どうしても見たいから、文句を言う人はおられなかったん
ですね。だけど、私はやっぱり議員でもあるから、皆さんに御説明させていただいて、歩
か、ここで帰るか、そのままバスを待つかという形を自主的に選びくださいというふう
に一生懸命頭を下げてですね、それでも皆さん文句は言われなかったですね。

だから、このように想像を超えてお客さんがいらっしゃっているので、やっぱりそういう
対応をですね、順路とか、そういうのをもう一度飛龍窯灯ろう祭りに対しては考えなければ

ならないということと、あと、図書館まつりをたくさんの方が私の周りでも楽しみにされておりますので、そういう対応を、お客さんがふえているというところで市民がゆっくり楽しめない状態になってきているんじゃないかということも踏まえて御意見がありますので、今後のイベントなどの対応についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、飛龍窯のほうなんですけれど、去年、反省を踏まえて、ことしもバスの増便とかやったんですけど、それでもやっぱり来訪者の方々の数に追いつけないということがあって、今回もさまざまな反省点がありましたので、そこはもう一回ちゃんと見直そうというふうに思っています。

いずれにしても、楽しく歩けるようにね、歩ける方は歩いてその会場に向かえるようにね、そういう仕掛けをぜひしていきたいと思っておりますし、図書館のほうは、オープン前の3月31日の午後に市民の方だけ開放いたします。3月31日日曜日の午後、武雄市民に開放をしていきたいと思っております。4月1日がオープンなんですけれども、やはり武雄市民の皆さんたち、早くやっぱり見たいということの御期待に応えたいと思っておりますので。

それと、もう1つが、3月31日にどうしても行けない方に関しては、ちょっとこれ、教育委員会でもよく調整しますけれども、5月か6月ぐらいに市民デーをちゃんと設けようと思っております。恐らく4月になると、全国的に多分報道されることになって、物すごい人がやってくると。そこにあえて市民デーを設けると、せっかく楽しみに来られた方々とどうしてもやっぱり違和感というのが出てまいりますので、少し落ちつくのが、多分5月か6月には落ちつくと思っておりますので、そのときには1日フルで市民デーを設けたいと思っております。最初は4月3日にしようと思ったんですよ、市民だから。ですので、これは混乱のもとになりそうなので、そこはちょっと変更をさせていただいてやる。ただ、確定しているのは、3月31日午後ですね、ぜひ市民の皆さん方、お誘い合わせの上、おこしいただければありがたい。その際は私も当然いるようにしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

どちらにしても、武雄市が本当にお客さんが訪れて、とてもいいまちづくりになっているんじゃないかというふうに思います。やはり市民の方が満足できなくていいおもてなしができないので、そこら辺のことをよろしく願いいたします。

それでは、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。